

ayafujii private circle

R-18

Adult Only

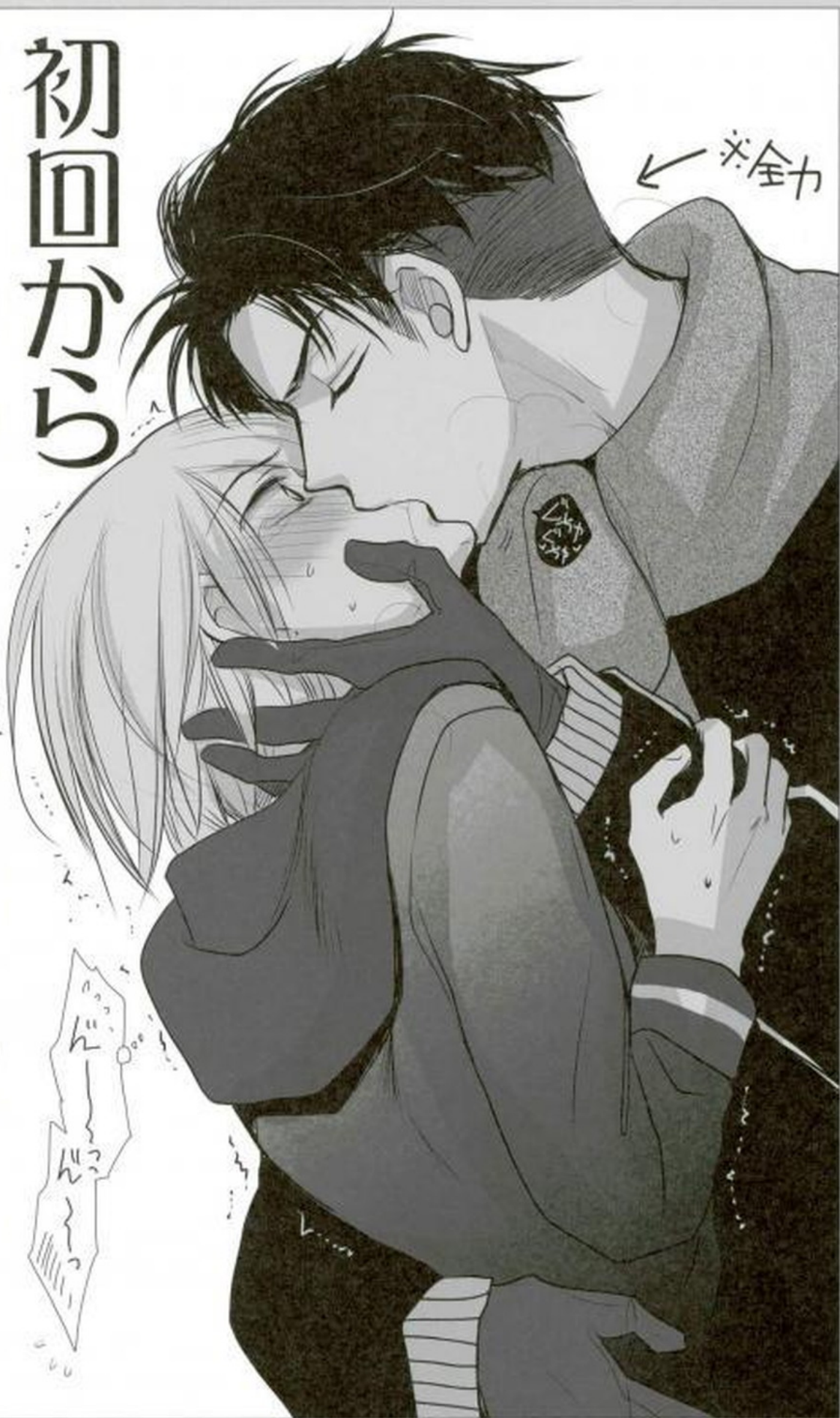


我が愛しの
ユーラチカ

~カザフより愛をこめて~

初回から
舌をつつこむ オクベツク

(ムツツリ)





← テレビ
みまってる!!

← スマホ
みまってる!!

オタバックが はじめて
突然キスしてきた時は
本当に驚いてしまったけど

そんな
俺の様子を
気遣ってか

あの日以降
強引に口を塞がれる事は
なくなり

時々逢っては遊び
戯れにキスをする

俺とオタバックは
親密な友人関係に
なっていた……

あー……
オタバックの舌
あったかい……

俺より体温
高いんだなあ

心地よくて
いつもポーっと
しちまう……

ユーリ

んー……？

お前は俺と
キスするのが

好きか？
嫌いか？
どっちだ？

よだめ
ついでに



へへ…

そんなの
好きに
決まってるだろ

すっげー
気持ちいいし…

なんか
しあわせな気分
になる……



オタベツク
キス上手だな

そう
か？

うん…俺
したことないから
比較出来ないけど

動揺

はじめて
だったのか？

あべろ
舐めてもらうの
気持ちいいや
だぜー



なあ
もっかい
しよ？

「ん」
「ん」
「ん」



知れば知るほど
内面は無垢で…

はじめて出会った頃の
ユーリは…才能の塊で

気が強くて…なんて大人びて
いるんだろうと思ったが…

可愛くて

しかたがない
—…っ

んっ
くっ
くっ



痛…ッ

可愛い
可愛い

こうか?

舌を吸われるのが
好きなのか…?

オタベック…

あ…っ

甘い声を
上げて…

ユーリ…

はあ…んっ

んっ
くっ
くっ





ユーラチカ...

うう...っ

ユーリ...

ユーリ...



あ...っ

.....っ

はじめでの
友達

少し歳の
離れた同じ
スケート選手

オタベック・
アルティン



カザフスタン出身の彼には
遊牧騎馬民族の血が
流れているのであろう

俺とは方向性が違う
ダイナミックで逞しい

雄々しさを
前面に押し出した
スケートインク

寡黙で
真面目な

カザフの英雄...

おっせーな...
かっけいした

.....

優しいオタベックに
俺は普通の友達以上に
大切にされていたと思う

嬉しかった
誇らしかった
しあわせだった

そんな関係が
永遠に続くと
思っていた
……

我が愛しのユーラチカ ~カザフより愛をこめて~

……え……っ？

ロシア
サンクト
ペテルブルグ

徴兵制？
兵役？

どーいう事
だよツ

兵役…そんなの
オタベツクの成績なら
免除だろ? どうして…

自分で志願??!?!?!

オイコラ理由
説明しろよ!!!

カザフスタン
アルマトイ

落ち着けユーリ…
こういうのは
電話でする話じゃない

来週ロシアまで
逢いに行く

ちゃんと
顔を見て
説明したい

いや…だから
自分で志願
したんだ

はああ?!

俺が
カザフ行く!

え…待て
ユー…

待ってるよ

カザフ行く!

切れた…





クソ寒い



慌てて出たから
防寒着忘れた



寝てる？

タクシーつかまんね

道分かんね

迷ったかも

雪スゲー

てかクソ寒い

着いた
おい起きろよ

まだ寝てる？

外で待ってる

外……

5時40分着の
エア・アスタナ……

夜が明けてしまった

いっ……頭痛が
寝すぎた

荒れてるな……
寒波がきてるのか……

泥酔して
寝るなんて……

今何時だ

まさか
あの電話の後

すぐに
飛び出して
きたのか？

ユーリ……ッ！

アルマトイ国際空港
着いたんだけど

05:55



湯船に
アキ込まれた人



吹雪で欠航したら
またしばらく
逢えねーだろ

顔見たかった
んだよ...



：朝っぱらから
突然押しかけて

しゅん...



こんな早朝に
ろくに準備もしないで
知らない場所に来るなんて

凍死
したいのか!

下
界
点
氷
の
世

Прости…
ごめんなさい



ふいっ



あああ

…ちがう…!

…怒鳴って
悪かった…

愛おしい
本当に

心配したんだ
体大丈夫か?

うん…

…兵役と言っても
長くリンクから
離れるつもりはない

ユーリが言ったとおり
俺は元々免除対象だしな

ただオフシーズンの
数ヶ月の間でいいから
学びたいんだ

学び…?



そう
自分がどんな国で
生まれ育ったのか

カザフスタンを守る
兵士（ソルジャー）達が
どんな生活をして
どんな理念をもって
戦いに挑んでいるのか

ユーリだって
知ってるだろう？
スケートの表現には
生きざまが出る

俺は人生の
経験不足だ

俺はお前と違って
一々頭で考えないと
滑れないからな

もつと知識と
価値観を上げなければ
きつとスランプに陥る





納得してくれたか？



ユーリ…
俺は少しでも長く
お前の傍にいたい

お前と表彰台を
争う立場で
いたいんだ



…オタベック…

少し見ない間に
随分大人びた
表情をする
ようになった

納得なんて
できねー！



そうやって
オタベックだけ
どんどん
大人になって…

ユーリ…

…価値観を
上げるのは
いいさ…
…でも…
…したら…

…新しい場所で
新しい出会いが
あって…



新しい
友達が
出て

俺の事
なんて
忘れる

…ユーリ…
泣いてるのか？

大丈夫だ
約束する

俺達はずっと

うっせー
よっせー！

口約束なんて
信用しねーよ!

そんなの簡単に
破られるんだから!

ユーリ

俺は約束は
破らない

誓うよ

ユーリは俺の
唯一無二の
友達だって

…俺はこの時
気づいてしまった

信じてくれ

俺はオタベツクの
特別になりたい

ユーリ…

たったひとりの
友達以上の



ユー…

ごめん…
なんとなく
気づいてたんだ…



あのさ…オタベック
いつもキスした後
トイレ行ってたろ…

あ…



あの
俺…
…セックスとか
…オ…オナニーも…
今まで興味なくて…

…てゆーか…
ちゃんと出した事だつて
ほ…ほとんどない…から

うまく相手出来るか
全然分かんないけど



ユーリ
精通まだ
なのか？

ユーラチカ

マジ天使

ハッキリ

言うなよ

特別な
存在に
なりたい



オタベック…

セックスしよ…



ほんと…お前
口が悪い…
きくな梅

まったく…

そんなの
今更だろ…

…はは…っ

あー…
オタベック
好きだあ…



大好きだ

オタベックとなら
痛くても辛くても
平気だよ

だから
お願い

俺に自信を
くれよ…

自信を

オタベックの
オンリーワン
だという



体の具合は…

…ん…
へーき…

…
寒くないか?

へーき
だってば…



そう…

上手に
なったな…

…オタバツクの
息が荒い…

凄い興奮してる…

体が重い…熱い…
汗ばんで…

なんだこれ…
オタバツクの体から

発情期の雄犬みたいな
やらしい匂いがする…

指先…凍傷にならなくて
本当によかった…

万が一切断にでもなっ
たら…俺は気が狂う

…なんて

ストレートに
感情をぶつけて
くるんだろう

当たり前だ

愛してるんだ

ユーリの全身
触ってキスしたい

…いいか?





ユーラチカ…

脚閉じろ



ら
あ…
あ

あ…
あ



俺の名前を呼んで…

いったな…
俺の…

オタベック…
あ



このまま…
きつちり
閉じてる…ッ

ははは

はは

はは

はは

はは…に?

はは

はは

はは

はは



あ…あ…
オタバツクの
熱くて太いの…

俺の股の
間をぬるぬる
こすってる…ッ

はは

はは

はは



ちやんと
お尻の穴に
いれて…ッ
オタバツク…ッ

ちやんと…
いれて…ッ

はは

はは

はは





オタベックの…すごい…長くて大きい…

お尻の穴が
ゆつくり…じわじわ
拡げられて…
中に入ってくる…



ずっと
動くからな…

ああ…
本当だ



あ…あ…
そんなしたら…

そ…んな
こすつたら…



あ…あ…あ…あ…
オタベックの
あたってる…

あたってる…

イイのか？

ここか？
ここがイイのか
ユーラチカ…ツ

オタバツクの
挿入は
長かった

死ぬほど

好きだ

好きだ

好きだ

オタバツクに
俺自身も知らなかった
身体の奥深くの
快感の塊を見つげられて

大きなペニスで
延々とこすられて

その間ずっと
愛を告白されて

初めてだというのに
多幸福感と快感と
ほんの少しの痛みで
気が狂うかと思った

愛してる

ユーラチカ…
好きだよ

ユーリ…

ユーリ…
大丈夫か…

意識
飛ばすなよ…

もう…
止めようか…?



ユーリ…っ

んん…っ

んんん



すごく…

すごく
いい…

わろっ
わろっ



ユーラチカの
ココ…

やわらかくて
俺のを
締め付けて
きて…

可愛い

もう…
出せそうだ…



うんっ
うん…っ

オタベック
俺も…っ

あ、あ、

いつしよ…
…っ



いい…から…っ

は…

は…

もっとして…

もっと俺の
身体使って…

気持ちよくなって…
オタベック…

は…

は…

一緒に……





やっぱり病院
行くか？

いいよ
遠慮する...

たまたま

じゃ...じゃあ
何か買ってくるか？
俺に出来る事は...

アーリーが...
しお...
ど...

兵役の間も
メール位
出来るんだろ？

あ
ああ...勿論

じゃあこれから
毎日メールくれよ

甘いやつ
俺も送るよ

毎日
甘いメールか...

ラブレター
みたいなやつ...

すっげ
熱いやつ...

ラブレター...

たまに
Hなやつ

おっ
写真くれる
なら...

オッサン
食いつき
良すぎ...

数カ月後

カザフ共和国軍
訓練施設総本部

あ…はい
自分の友達…

恋人です

……
いえ…

「恋人です」

END







カチヤ
オタバ
ツク
猫超可愛く
撮れたんだ
いっしょに
見……

全員抱いたZ☆

※三十路目の
ヴィクトルが
一番だめな大人



28才 →

25才

バック
から

24才

19才

オタバの
バック
♡



オタバのヴァアマカッ

あ……っ
ちよ……っ
誤解だ
つつ

スポッ

ユリオも
おい……

京都のおみやげ屋に

京都銘菓

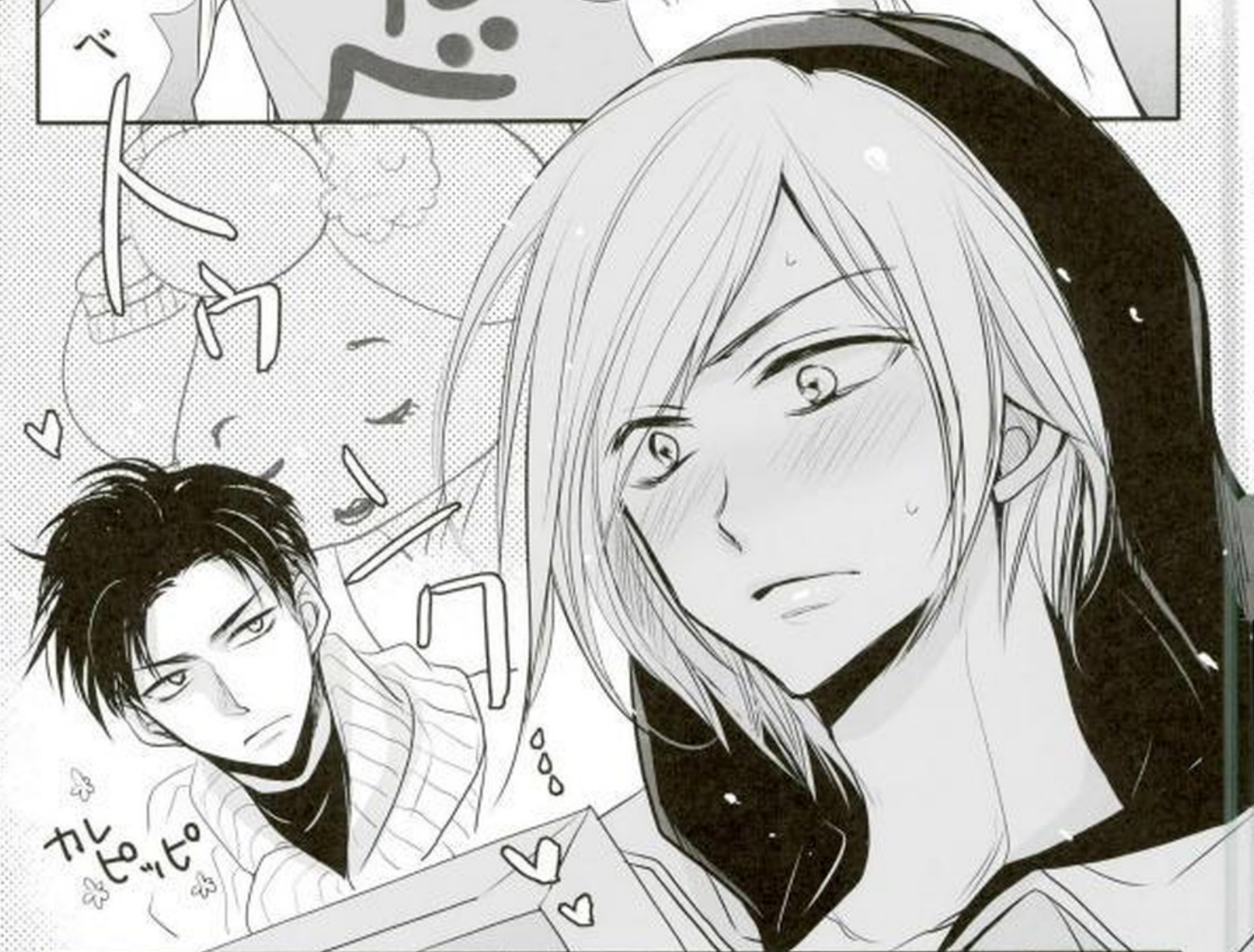
おたぶ

お...
た...

ベ

なんて
読むんだ
これ...

えーと...
お...



ええええ
ええええ
ええええ

そんな
生八ツ橋
好きだった
の!!!???

おみやげ

そこに
あるの
全部下さい

レミ

A collection of blue ink splatters of various sizes and shapes, scattered across the page, primarily concentrated around the central text.

我が愛しの
ユーラチカ

～カサフより愛をこめて～